



コロナ禍の工夫 スタンプラリーで楽しく防災

協働パターン 町会と防災団体と商店会

井の頭一丁目町会 × 三鷹台商店会
協力：防災団体やろうよ！こどもぼうさい

スマホでぼうさいスタンプラリー

3/28(日) 10:00-12:00

ポイントに設置されたQRコードを読み取る非接触型のスタンプラリーです。アプリのダウンロードは不要、1台のスマホで、お連れの方全員が参加できます！

ポイントマップ

まち歩きで地域の防災を学べる！

- ★インフォメーション(ハニーサロシカネト製)
- ★がらりーポイント(6か所)です。好きなポイントからスタートできます。開催期間内に4つ以上のスタンプを集めて、★で景品をもらいましょう！

防災グッズやお店の割引券など豪華景品をゲット！

スマホがなくても大丈夫！スタンプも用意してあるので、ポイントのスタッフから台紙を受け取って、ぜひ参加してね！

※新型コロナウイルス感染症の状況等により、開催中止の判断をすることがあります。
【このイベントに関するお問い合わせ】町会総務課：090-9202-4939



概要

主体者名称	井の頭一丁目町会	町会設立年	1974年
協働先	防災団体「やろうよ！こどもぼうさい」、三鷹台商店会		
所在地	東京都三鷹市	町会加入世帯数	886
		加入率	36.1%
		町会運営メンバー	18人 平均73歳
地域の状況	京王井の頭線三鷹台駅南側の住宅地。町会では、防災訓練に楽しさを加えることで防災意識の向上に努めている。隣近所のつながりを重視しており、町会のイベントスタッフに中学生や大学生も参加。		
協働の内容	地域の防災設備について学ぶ「スマホでぼうさいスタンプラリー」の開催。		

協働のきっかけ

数年前より、町会の防災イベントは、防災団体「やろうよ！こどもぼうさい」の協力を得て、開催をしてきました。町会ではコロナ禍でもできる防災イベントを考えていた際に、「こどもぼうさい」に相談したことが発端で、まちの防災資源を巡るスタンプラリーを開催することになりました。さらに、日頃からお付き合いがあり、地域密着を推進している三鷹台商店会にもお声がけしたところ、三者で連携して取り組むことになりました。

回答者

井の頭一丁目町会会長
たけがみ きょうこ
竹上 恭子 さん



防災団体「やろうよ！こどもぼうさい」
代表
やまざき ひかる
山崎 光 さん

三鷹台商店会副会長
にし の かずひろ
西野 和弘 さん

取組内容

<コロナ禍での防災イベント>

町会では、東日本大震災を契機に、毎年3月に防災イベントを開催しています。コロナ禍で「3密」を避けて実施できる防災イベントとして、協働によって生まれたアイデアが、スマートフォンの二次元バーコード読取機能を利用した非接触型のスタンプラリー「スマホでぼうさいスタンプラリー」です。

<町内の防災設備をスタンプスポットに>

「スマホでぼうさいスタンプラリー」は2021年3月に実施しました。町内の防災設備等（街頭消火器、可搬式消防ポンプ、交番 AED、臨時避難所、防災無線、災害時在宅生活支援施設 防災倉庫）にスタンプスポットを設置し、時間内に4つ以上のスタンプを集めると景品がもらえるもので、三鷹台商店会から広告や景品提供といった協力を得られました。コロナ禍でも楽しく防災を学べるイベントになり、当日は多くの参加者の「街歩きが楽しかった」、「町内の防災資源について知ることができて良かった」といった嬉しい声を耳にすることができました。

協働で工夫したポイント

イベントの企画運営はアイデア力のある「やろうよ！こどもぼうさい」が、広告や景品の提供は三鷹台商店会が、関係機関への案内やスタッフの確保は町会が担いました。コラボイベントでは、企画時の丁寧な打合せと、運営時の明確な役割分担が重要だと考えています。また、普段から連携し、互いの活動を熟知している団体同士の協働だったため、それぞれの得意分野、強みを活かせる役割分担ができました。これは連携を続けることによって生まれるものだと思います。

ふりかえり（評価）

(1) 事業の実施結果

「やろうよ！こどもぼうさい」には町会にないアイデアを提案してもらい、三鷹台商店会には参加者が「楽しかった、また参加したい」と感じるような景品を提供してもらいました。協働によってより参加しやすいイベントになり、コロナ禍でも地域の人々が楽しく防災を学ぶ機会を創出することができました。

(2) 協働の一連の取組結果

事業準備段階	プログラム遂行	事業終了後
◎	○	○

町会

コロナ禍でも防災イベントを実施できたのは、団体同士が普段からつながりがあり、お互いの活動について熟知しているところが大きいと思います。

こどもぼうさい

コロナ禍で多くの地域イベントが中止となる中で、どのような工夫をすれば実施できるか、3団体で共に考えて実行できたことに、大きな価値を感じています。このような取組を他の地域でも広げていけるよう、手法やオンラインスタンプツール等を含めた実績を発信していくことが重要だと思います。

商店会

商店会としては、仕事の都合上、振り返りの時間が持てなかったことと、事業の完了で満足してしまうことで、課題を認識しても、検討、解決まで進まないことが常です。

今後の展開

防災は一町会だけでできることではなく、近隣の団体や学校などとの連携が必要です。町会に加入していない方にもぜひ町会イベントに参加していただき、「互いに学び合える」地域をつくれたらと願っています。

「やろうよ！こどもぼうさい」の若い人たちはスマホに詳しく、アプリを使ったスタンプラリーを考えてくれました。町会の他のイベントでも、申込み方法などは若い人がアプリを使って考えてきています。新しいことを始める場合、効率的な方法を考えるのは若い世代の得意分野なので、今後の活動でも意見をもらっていきたいと思います。

活動者・参加者の声

参加者

こんなところに防災施設があるとは知らなかった。

参加者

街歩きが楽しかった。

参加者

町内の防災資源について知ることができて良かった。